

1 主題名 やらなければいけないこととは 4-(1) 公德心, 規則の尊重, 権利・義務

2 資料名 どうして, 学校へ行くのかな? (日本標準)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人はそれぞれに権利をもっている。しかし、その権利というのは、自分と同様に他者ももつ。社会を維持していくには、自分だけでなく他者の権利も尊重しなければならず、同時に権利を主張するには、義務を果たさなくてはならない。教育を受けることはみんなの権利であり、学校生活において、集団の活動に積極的に参加し、主体的にかかわっていこうとする態度を育てたい。

(2) 児童について

児童は、集団登校や清掃班、ふれあいグループの班長など、最上級生としての経験を重ねながら、下級生の手本となり、人の役に立てるよう日々努力している。連合音楽会では、連日の厳しい練習を乗り越え、すばらしい歌声を響かせることができた。しかしまだ、学級の係活動の様子を見ると、責任感が足りず、するべき仕事に対しめんどくさいとかなぜやらなくてはいけないのかといった消極的、否定的な見方をする児童がいる。学校へ通う権利を使うことは自分の利益につながるものであることを理解させ、権利を主張し、守っていくために自分たちは学校で何をすべきなのか、何ができるのかを考えさせたい。

(3) 資料について

「なぜ学校に行かなければいけないのか」という、多くの児童が一度は思うであろう質問に、作家的那須正幹さんが答えている。学校に行くことは権利であり、行くことでさまざまないいことがあるという内容である。学校に行くことのよさを考えることを通して、権利を大切にしようという思いをもたせたい。

(4) 指導について

最初に、世界の子どもたちの写真を見せ、学校に行きたくても行けない子どもがいる現状を知らせる。次に、自分たちの普段の生活を振り返りながら、何のために学校へ行くのかを班で話し合わせ、一人一人の考えをしっかりとめた後、全体で発表させる。それから、資料的那須さんの回答を読ませ、学校へ行くことは義務ではなく権利であることをおさえる。そして、権利なのだからしなくてもよいことなのに、なぜ自分たちは学校へ毎日行くのか、家ではなく学校だからこそできることは何かということを話し合わせる。最後に、学校へ行くという大切な権利を行使し、自分たちには学校で何ができるのかについて考えさせ、それらを実践していこうとする気持ちを高めたい。

4 本時の目標

学校へ通うことは権利だということに気付き、学校生活の中で目標をつくり、権利を全うしようとする態度を育てる。

5 準備物

世界の子どもたちの写真、那須正幹さんの本、ワークシート

## 6 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気づく	<p>1 世界の子どもたちの写真を見て、話し合う。</p> <p>○この写真の子どもたちは、何をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水くみの仕事をしている。</li> <li>・武器を持って戦っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず児童に自由に予想させる。</li> <li>・世界の子どもたちの現状を説明し理解を深める。</li> </ul>
考える・深める	<p>2 学校へ行く意味について話し合う。</p> <p>○私たちは、何のために学校へ行くのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強するため。</li> <li>・友達と遊ぶため。</li> <li>・運動するため。</li> <li>・おいしい給食を食べるため。</li> </ul> <p>3 資料「どうして、学校へ行くのかな？」を読んで話し合う。</p> <p>○学校へ行くことは子どもたちの権利です。権利とは、しなくてもよいことなので、家にいてもよいこととなりますが、みなさんは毎日学校に来ていますね。ではなぜみなさんは学校に来ているのでしょうか。家ではなく学校でみなさんができることにはどんなことがあるでしょう。</p> <p><b>家でもできること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強すること。</li> <li>・友達と遊ぶこと。</li> <li>・運動すること。</li> </ul> <p><b>学校でないとできないこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連音や連体のように、友達と一緒に何かをやり遂げること。</li> <li>・人の役に立つことをすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の自分たちの生活を振り返ったり、世界の子どもたちと自分たちを比べたりして考えるよう促す。</li> <li>・班で意見を交換し合う時間を取りその後全体で発表させる。</li> <li>・資料の後半部分の回答を読んで考えさせる。</li> <li>・家ではなく学校でしかできないことは何か、ということに論点をしぼっていく。</li> <li>・「義務」と「権利」の言葉の意味をおさえる。</li> <li>・学校に通うことは自分の利益につながるものであるということを理解させたい。</li> </ul>
見つける	<p>4 これからの自分について考える。</p> <p>◎与えられた大切な権利を使って、学校でみなさんにできることは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この間の地下道掃除のように、人のためになること。</li> <li>・下級生とふれ合い、楽しませること。</li> <li>・勉強や運動などに精一杯取り組み、自分を強くすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身をしっかり見つめさせるため、ワークシートに書かせたい。</li> <li>☆教育を受けることは自分の権利であることに気づき、自分たちには学校で何ができるのか考えることができたか。</li> </ul> <p>（発表・ワークシート）</p>
高める	<p>5 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞かせ、実践への意欲付けを図る。</li> </ul>

## 7 授業の観点

- ・ねらいに迫るための、発問や展開の仕方は適切であったか。